



2019年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年8月8日

上場会社名 株式会社メディネット 上場取引所 東
 コード番号 2370 URL https://www.medinet-inc.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 佳司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 落合 雅三 TEL 03-6631-1201
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の業績 (2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	755	—	△855	—	△887	—	△807	—
2018年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第3四半期	△6.83	—
2018年9月期第3四半期	—	—

(注) 当社は、連結子会社2社を吸収合併したことにより連結子会社が存在しなくなったため、2019年9月期第1四半期より非連結決算に移行しましたので、2018年9月期第3四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第3四半期	2,996	2,435	79.9
2018年9月期	3,864	3,250	82.7

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 2,393百万円 2018年9月期 3,196百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年9月期の業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,026	2.8	△1,635	—	△1,631	—	△1,641	—	△13.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考) 連結子会社2社を吸収合併したことにより2019年9月期より非連結決算に移行しましたので、対前期増減率は当該子会社2社の経営成績を含む、連結経営成績と比較しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期3Q	118,330,423株	2018年9月期	118,230,423株
② 期末自己株式数	2019年9月期3Q	－株	2018年9月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期3Q	118,330,057株	2018年9月期3Q	112,396,267株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。
- ・2019年9月期第1四半期決算短信より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。
- ・決算補足説明資料は、本日2019年8月8日（木）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報)	6
3. その他	6
継続企業の前提に関する重要事象等	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2018年10月1日から2019年6月30日まで）において当社は、前事業年度より引き続き、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」と「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」による法的枠組みの下、新たなビジネス展開による事業拡大に向けた取り組みを進めるとともに収益構造の改善に注力しております。2018年10月1日には、前事業年度より実施している事業構造改革に伴う経営効率化の一環として、完全子会社である株式会社医薬経営研究所と株式会社メドセルの2社を吸収合併しました。

2018年12月には、株式会社JUNTEN BIOと同社が学校法人順天堂と共同で開発を行っている臓器移植後の拒絶反応の抑制を目的とした再生医療等製品の製造技術の開発委受託契約を締結いたしました。2019年1月には、米国のBioLegend社と当社が保有する新規モノクローナル抗体を用いた研究用製品の開発を目的としたライセンス契約を締結しました。2019年2月には、中国ハイアールグループ傘下のQingdao Haier Biotech Holding Co., Ltd.との間でヘルスケア領域における業務提携に向けた協議の実施の合意書を締結し、2019年3月には、同社と中国から日本への再生・細胞医療等の先端医療や健診の受診を目的とした医療ツーリズム事業の提携について契約を締結いたしました。

また、前事業年度に当社がライセンス契約を締結したHistogenics Corporation（所在地：米国マサチューセッツ州ウォルサム市、以下「ヒストジェニックス社」という。）は、これまで米国で開発中の自家細胞培養軟骨「NeoCart®」の米国第Ⅲ相臨床試験のトップラインデータ及び今後の生物学的製剤承認申請（Biologics License Application：BLA）に関して米国食品医薬品局（FDA）と協議し、FDAよりBLAには追加の臨床試験が必要であるとの回答を受けたことから、当該追加試験の実施のための資金調達等も含めた検討をしておりましたが、2019年4月に、米国で臨床段階の革新的なバイオ医薬品を開発しているOcugen社（米国ペンシルベニア州モルバーン市）と合併契約を締結したことを発表いたしました。さらに同年5月には、ヒストジェニックス社がMedavate社（米国コロラド州フォートコロリンズ市）と自家細胞培養軟骨「NeoCart®」に係る資産譲渡契約を締結したことに伴い、当社とヒストジェニックス社の間で締結した自家細胞培養軟骨「NeoCart®」に関するライセンス契約についてもMedavate社に譲渡されることから、当社は今後、自家細胞培養軟骨「NeoCart®」の製造販売承認を目指すMedavate社と国内における自家細胞培養軟骨「MDNT01」の開発に係る協議を進めてまいります。

これらの結果、当第3四半期累計期間における当社の経営成績は以下のとおりとなりました。

（金額単位：百万円）

	売上高	営業損失（△）	経常損失（△）	四半期純損失（△）	1株当たり 四半期純損失 （△）
当第3四半期 累計期間	755	△855	△887	△807	△6.83円

当第3四半期累計期間においては、売上高は755百万円となりました。損益面につきましては、構造改革の実施による効果等により営業損失は855百万円、為替差損30百万円の営業外費用等により経常損失は887百万円となりました。また、株式会社医薬経営研究所と株式会社メドセルの2社を吸収合併したことによる抱合せ株式消滅差益62百万円、貸倒引当金戻入額32百万円、投資有価証券売却益8百万円等の特別利益の計上、事業構造改善費用22百万円の特別損失の計上等により、四半期純損失は807百万円となりました。

報告セグメント別の経営成績の概況は、以下のとおりであります。

（金額単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 （注）1	四半期損益計算書 計上額（注）2	
	細胞加工業		再生医療等製品事業			セグメント 損失（△）	売上高
	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 損失（△）	売上高		
当第3四半期 累計期間	752	16	2	△333	△537	755	△855

（注）1. セグメント損失（△）の調整額は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失（△）は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っています。

① 細胞加工業

細胞加工業については、細胞加工業の3つのビジネス領域(「特定細胞加工物製造業」・「バリューチェーン事業」・「CDMO事業」)の拡大に向けて積極的な活動を展開しております。特定細胞加工物製造業では、特定細胞加工物製造委託契約を締結している医療機関において、一部では患者数の増加が見られるものの、がん免疫治療分野での市場環境の変化等により、患者数の回復が限定的となる一方で、CDMO事業を含め細胞加工事業の新たな顧客獲得に向けた取り組みにも注力いたしました。また、構造改革の実施による細胞培養加工施設の集約化、人員配置の最適化等により、損益は大幅に改善した結果、売上高は752百万円、セグメント利益は16百万円となりました。

② 再生医療等製品事業

再生医療等製品事業については、再生医療等製品の早期の収益化を目指すとともに、国内外で行われている再生医療等製品の開発動向にも注目し、それらのパイプライン取得、拡充を視野に入れた活動を行っております。自家細胞培養軟骨「MDNT01」に係る研究開発投資が想定を下回ったこと等から、売上高は2百万円、セグメント損失は333百万円となりました。

なお、当社は2018年10月1日付で、連結子会社であった株式会社医業経営研究所と株式会社メドセルを吸収合併したことにより、第1四半期累計期間より非連結決算に移行し、四半期財務諸表を作成しております。このため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(財政状態)

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増減
資産合計(百万円)	3,864	2,996	△868
負債合計(百万円)	614	560	△53
純資産合計(百万円)	3,250	2,435	△814
自己資本比率(%)	82.7	79.9	△2.8
1株当たり純資産(円)	27.03	20.23	△6.8

資産合計は、現金及び預金1,085百万円減少、有価証券300百万円増加等により、前事業年度末に比べて868百万円減少しました。

負債合計は、前事業年度末に比べて53百万円減少しました。主な減少は賞与引当金37百万円です。

純資産合計は、四半期純損失807百万円等により、前事業年度末に比べて814百万円減少しました。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末の82.7%から79.9%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の業績予想につきましては、2018年11月9日に公表しました業績予想から変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,126,881	1,041,149
売掛金	228,487	281,529
有価証券	—	300,000
仕掛品	13,014	14,102
原材料及び貯蔵品	35,590	32,911
その他	110,204	47,026
流動資産合計	2,514,178	1,716,720
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	791,440	805,239
その他(純額)	79,742	64,046
有形固定資産合計	871,182	869,286
無形固定資産		
	79,247	61,561
投資その他の資産		
投資有価証券	212,177	179,801
長期貸付金	571,250	567,500
破産更生債権等	—	528,125
その他	187,778	168,852
貸倒引当金	△571,250	△1,095,625
投資その他の資産合計	399,956	348,653
固定資産合計	1,350,386	1,279,501
資産合計	3,864,565	2,996,221
負債の部		
流動負債		
買掛金	61,344	52,203
未払法人税等	32,856	17,998
賞与引当金	59,086	21,646
事業構造改善引当金	4,210	—
資産除去債務	87,560	124,751
その他	191,458	178,143
流動負債合計	436,515	394,742
固定負債		
資産除去債務	144,411	145,822
その他	33,137	19,709
固定負債合計	177,548	165,532
負債合計	614,064	560,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,362,829	7,367,668
資本剰余金	1,547,359	1,552,197
利益剰余金	△5,715,136	△6,522,834
株主資本合計	3,195,052	2,397,031
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,304	△3,367
評価・換算差額等合計	1,304	△3,367
新株予約権	54,144	42,282
純資産合計	3,250,501	2,435,946
負債純資産合計	3,864,565	2,996,221

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
売上高	755,261
売上原価	496,228
売上総利益	259,033
販売費及び一般管理費	1,114,648
営業損失(△)	△855,615
営業外収益	
受取利息	5,369
設備賃貸料	2,501
その他	3,350
営業外収益合計	11,221
営業外費用	
支払利息	1,367
為替差損	30,505
投資事業組合運用損	4,249
その他	7,227
営業外費用合計	43,350
経常損失(△)	△887,744
特別利益	
固定資産売却益	4,500
抱合せ株式消滅差益	62,600
投資有価証券売却益	8,700
新株予約権戻入益	1,861
貸倒引当金戻入額	32,325
特別利益合計	109,986
特別損失	
事業構造改善費用	22,212
特別損失合計	22,212
税引前四半期純損失(△)	△799,970
法人税、住民税及び事業税	5,091
法人税等調整額	2,636
法人税等合計	7,727
四半期純損失(△)	△807,697

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

当第3四半期累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	細胞加工業	再生医療等 製品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	752,582	2,679	755,261	—	755,261
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	752,582	2,679	755,261	—	755,261
セグメント利益又は損失(△)	16,216	△333,957	△317,740	△537,875	△855,615

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△537,875千円は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、がん免疫療法市場の環境変化に伴う細胞加工業の売上急減に加え、再生医療等製品事業分野における自社製品の開発進捗に伴う支出が累増しているため、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローが発生しており、継続企業の前提に疑義を生じさせるリスクが存在しております。

しかしながら、当社における当第3四半期会計期間末の資金残高の状況及び今後の資金繰りを検討した結果、事業活動の継続性に疑念はなく、また、当該状況の改善を図るべく、前事業年度より事業構造改革を実施しております。

当該構造改革の着実な実行を通じ、営業キャッシュ・フローの改善に努めるほか、今後の運転資金も十分に確保できる見通しであることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。